

「市民と協働のまちづくり」

心ゆたかな人づくり事業

わたしにできる「おもてなし」 笑顔でこたえる「ありがとう」

本市は、心ゆたかな人づくりのスローガンを“私にできる「おもてなし」笑顔でこたえる「ありがとう」と定め、公民館や学校・幼稚園を「心ゆたかな人づくりの拠点」と位置づけ、ここから情報を発信するとともに、地域・学校・家庭での「一徳運動」の実践をとおして「心ゆたかな人づくり」の具現化を目指しています。特に、地域、学校、家庭が、「一徳運動」をとおして連携・協力して取り組むことを本市の特色として、進めています。

また、平成22年度からは、「市民と協働のまちづくり」の視点に立ち、徳育推進人づくり講演会を市民団体と共催で実施するとともに、「一徳運動」を市民団体や事業所に拡大することで、市民と行政が連携・協力して徳育の市民への浸透を図っています。

＜「一徳運動」の実践例＞



「一園一徳運動」(今日のありがとう)



「一校一徳運動」(海岸の清掃)



「一家一徳運動」(親子での読み聞かせ)



「一館一徳運動」(利用団体による植え替え)

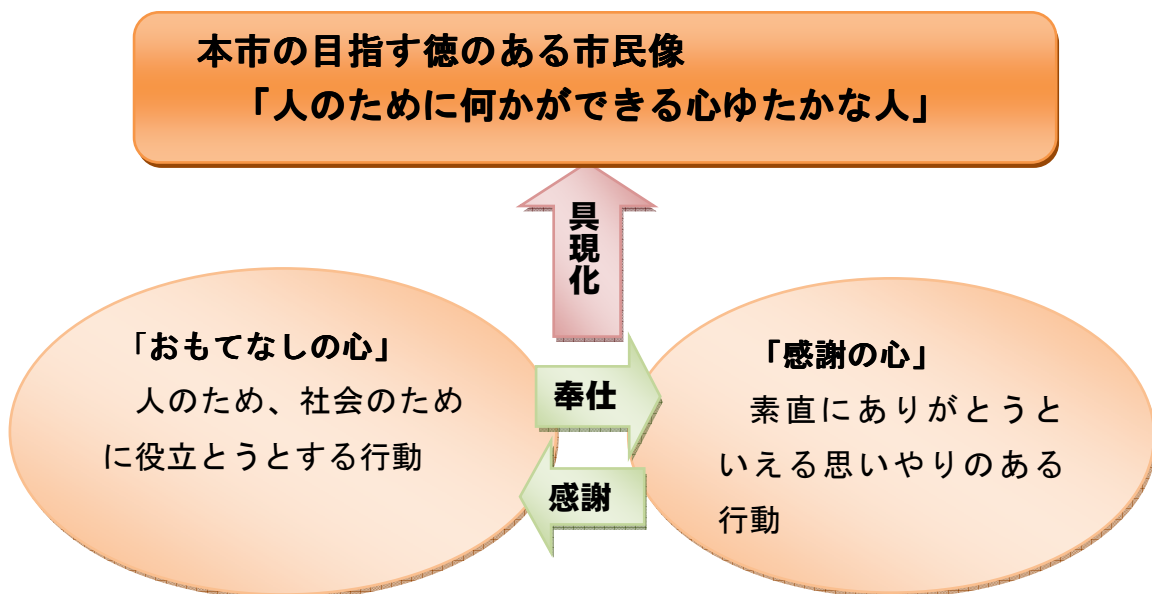
なぜ心の教育を進めるのか

平成 17 年の合併の際に、「まちづくり」の土台は「人づくり」であるという考えに立って本市の教育理念を「心ゆたかな人づくり」と定め、学校だけでなく、家庭、地域などの生涯学習すべての場における教育の指針としてきました。本市は、徳育をとおしての「人づくり」を目指しています。

本市の目指す徳育はどんなものか

本市には、長い歴史や人々の生活の中で、時間をかけて培われてきた崇高な精神的風土ともいえるべきものがあります。その代表的なものが、市内各地に脈々と流れる「報徳の精神」であり、東海道の宿場町の賑わいと交流の中で育まれた「おもてなしの心」であるといえます。これらは本市にとってかけがえのない宝です。世の中がどんなに変わろうとも、市民がこのような精神を大切にし、自らの行動で示すとともに、次世代にしっかりと引き継いでいくことが、「心ゆたかな人づくり」につながっていくものと考えます。

そこで、本市の「心ゆたかな人づくり」のキーワードを「おもてなしの心」と「感謝の心」とし、この2つの心で「心ゆたかな人づくり」を目指していきます。「おもてなしの心」で人のため何ができるか考えて行動し、奉仕を受けたものは素直な気持ちで「感謝の心」を表す、この2の心が行動になって表れ、双方向に結びつくことで、「人のために何かができる心ゆたかな人」の具現化につながると考えます。



心の教育をどのように市民に浸透させていくのか

1 市民への啓発活動

(1) 啓発ポスターの利用

市民から募集したシンボルマークを利用したポスターを作成し、公民館、幼稚園、学校、公会堂、協力事業所に掲出し、徳育推進のスローガン“わたしにできる「おもてなし」笑顔でこたえる「ありがとう」”の浸透を図っています。

シンボルマークの愛称を児童生徒及び保護者から募集し、“ニコリン”という愛称に決定しました。



< 徳育推進啓発ポスター >

(2) 徳育推進人づくり講演会の開催

平成20年度から徳育推進人づくり講演会を開催し、本市の徳育の取組を紹介するとともに、心を育てる内容の講演会を実施しています。

< 講演会の講師と講演内容 >

平成20年度	塚本 こなみ 氏	(環境緑化コンサルタント)	「心根を育てる」
平成21年度	長谷川真知子 氏	(浜松大学教授)	「おもてなしの心」
平成22年度	熊倉 功夫 氏	(静岡文化芸術大学長)	「お茶と日本文化」
平成23年度	平野 久美子 氏	(ノンフィクション作家)	「鳥居信平に学ぶ・夢を見る力」
平成24年度	有馬 朗人 氏	(静岡文化芸術大学理事長)	「徳育と学力」
平成25年度	安田 泰敏 氏	(囲碁棋士九段)	「ふれあうことの大切さ」
平成26年度	中桐 万里子 氏	(親子をつなぐ学びのスペース「リレイト」代表)	「ゆたかな人づくりの秘訣」
平成27年度	富田 寿人 氏	(静岡理工科大学教授)	「運動遊びをととした子どもの成長」

2 実践活動

(1) 「一徳運動」の継続・充実

「一徳運動」とは、「おもてなしの心」や「感謝の心」を基本に具体的な行動目標を一つ決めて、みんなで取り組むものです。「一館一徳」(公民館・地域)、「一校(園)一徳」(幼稚園や小中学校)、「一家一徳」(家庭)の取組を進めることで、市民生活のそれぞれの場で徳育が実践され、「心ゆたかな人づくり」が具現化されていきます。

(2) 「心ゆたかな人づくり(徳育推進評価指標)」の活用

本市は、子どもの心の成長の見取りと保護者の子育ての意識付けの

ために本市独自の「徳育推進評価指標」を作成し、平成 21 年度から市内保育所・幼稚園の 3 歳児の保護者に毎年配布しています。



< 保護者に配布している「徳育推進評価指標」 >

< 声掛けモデル「ニッコリンなひとこと」 >

取組の成果はどんなところにあらわれているか

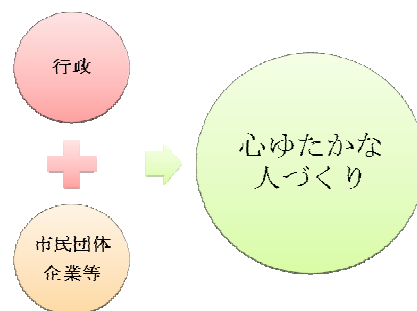
公民館や幼稚園、小中学校での徳育についての情報発信や「一徳運動」の継続により、地域や子どもたちに徳育の実践が徐々に定着するとともに、この取組をとおして市民や保護者に徳育の大切さや日常生活での実践が少しずつ浸透してきていると考えられます。

< 市民意識調査の結果 > (平成 27 年度 回答数 1,534 人、回収率 51.1%)

「一徳運動（相手のことを思いやる行動、感謝の心を伝えること等）を実行している」と回答した市民 **69.4%**

今後の取組の課題はどんなことか

幼稚園、小中学校や公民館等の教育関係機関を中心に徳育をとおしての「人づくり」のスタートを切りましたが、「心ゆたかな人づくり」を具現化していくには、市民一人ひとりが徳育を理解し、日常化して初めて実現されるものです。そのため、行政だけではなく、「まちづくり」、「人づくり」を進める市民団体や地域貢献を進める企業・事業者などと連携協力し、幅広く、地道な取組を続けていければと考えています。



担当：袋井市教育委員会教育企画課

〒437-8666 袋井市新屋一丁目 1 番地の 1 TEL 0538-44-3120

